

2024 年度 東アジア政治 I 学期末試験 7 月 29 日 (月) 第 3 限 (13 : 15 ~ 14 : 45)

担当：磯崎典世

<注意事項>

- ・学期末試験の成績評価は 70% というに基準で作成しています。
- ・解答の順序は問いませんが、大問の解答はまとめ、問題番号を明記して記載して下さい。

問 1 : 下記の事項について、それぞれ解答用紙 3~5 行を目安に説明しなさい <5 点×4>。

- (1) 現実外交
- (2) 輸出指向工業化
- (3) アジアにおける米国の同盟体制 (欧州と比較し相違点を明らかにする)
- (4) 日韓国交正常化交渉の対立点と条約における妥結内容

問 2 : 下記の問いについて、それぞれ解答用紙 8~10 行を目安に論じなさい <10 点×5>。

- (1) グローバルな冷戦が終わっても東アジアの冷戦は継続している面があり、両者を同一視して理解することはできない。東アジアにおける冷戦が、グローバルな冷戦と差がある理由をまとめ、それにアプローチするために重要な視点を提示しなさい。
- (2) 日本は、サンフランシスコ体制の下でどう位置づけられ、60 年代に本格化した「開発をめぐる対立」において、どんな役割を果たしたか。敗戦で途切れた経済関係の再構築という観点を重視して、冷戦下でのアジア諸国と日本の関係について論じなさい。
- (3) 60 年代末から 70 年代初頭にかけてアメリカは対アジア政策を転換し、それによって冷戦構造も変容した。なぜ、どのようにアメリカは政策を転換したのか。政策転換の理由と、転換でどんな東アジア国際関係を築こうとしたのか、その意図を論じなさい。
- (4) 70 年代のアメリカの政策転換は、東アジアの冷戦の最前線で米国に支えられてきた韓国と台湾は危機に遭遇したが、それぞれいかに対応したのか。異なる対応をとった理由が明確になるように、両国の政権の対応について論じなさい。
- (5) 中華人民共和国は国交正常化交渉において、中台関係に関するどんな「原則」を提示して相手国に何を要求したか。それに対して、72 年の米中共同コミュニケで米国はどうか対応し、同年の日中国交正常化・日台断交において、日本はどうか中国に対応し、台湾との関係を調整したのか。中国の掲げる「原則」と、日・米の中台問題に対応した政策をまとめなさい。

ボーナス問題 : 70 点満点の問題に追加してボーナス問題を出題します <5 点>。

授業で配布した韓国のヴェトナム派兵に関する参考資料の重要点をまとめ、東アジアの国際関係 (日韓の経済関係も含む) に与えた影響について論じなさい。